

第3回外部評価委員会会議録

日時：平成27年12月21日(月)

午後1時から午後5時

場所：県庁10階 特別大会議室

(1) 試験研究業務の評価

- ・平成28年度 of 取組みへの対応について
資料により説明。

- ・課題別評価の協議

各委員から第2回委員会で報告した試験研究の取組み内容と今後の方向性について、研究計画に対する意見や評価を受けた。

(質疑)

委員：農業経営モデルを7モデル策定しているが、今後の予定はどのようになっているのか。

回答：目標では16モデルを策定する計画である。

(1) 普及指導活動の評価

1) 評価の視点・評価表について

評価の視点・評価表について説明。

2) 徳島農業支援センターの活動概要及び重点活動の取り組みについて

管内の農業・農村の現状と課題、普及指導活動の方針、普及活動体制について説明。

続いて、重点課題「次代を担う経営体の支援」について説明。

(質疑)

委員：すだちヘルパーはどのような人から申込があるのか。

回答：応募者は農業に興味のある人で、20歳後半から50歳代までの幅広い年齢構成となっている。

委員：すだちヘルパーの募集はどうようしているのか。

回答：新聞広告への掲載やパンフレットの作成・配布により募集を行っている。

委員：無償のボランティア活動に参加した人の中から、実際、農家の方が3人を採用しているが、契約はどのようになっているのか。

回答：すだち収穫期間の約1ヶ月について、農家と採用者が雇用契約を結んでいる。

委員：農業従事者の高齢化が進行しているので、すだちだけでなく、他の品目でも同じような取組みが必要ではないか。

回答：阿南農業支援センター管内では「ゆず」、鳴門藍住農業支援センター管内では「ニンジン」において、モデル的に取組んでいる。

3) 鳴門藍住農業支援センター活動概要及び重点活動の取り組みについて

管内の農業・農村の現状と課題、普及指導活動の方針、普及活動体制について説明。
続いて、重点課題「鳴門藍住地域の園芸産地振興支援」について説明。

(質疑)

委員：短葉性ネギを食べてみたが、白ネギに比べ美味しかった。消費者への認知度を高めるため、食味の良さをPRして欲しい。

回答：年末から出荷が始まり、東京市場にも出荷するので、関係機関と連携し、しっかりPRしたい。

委員：説明資料では、「短葉性ネギ」、「ふゆわらべ」、「阿波太ねぎ」という名称を使用している。今後、普及する可能性が高いと思うので、県下でブランド名を統一して販売してはどうか。

回答：昨年、商品名を「阿波太ねぎ」に決めたところであるが、生産者により農産物直売所での販売や市場出荷など多様な販売ルートがあるため、名称の統一が徹底されてなかった。今後は販売先などを考慮し、ブランド化を推進したい。

委員：鳴門藍住管内における野菜の栽培面積の状況はどうなっているのか。

回答：ブロッコリーと短葉性ネギの栽培面積は増加している。普及指導計画で目標を設定している9品目については、一部減少している品目もあるが、全体としては増加している。

4) 農業人材育成・確保の取り組みについて

資料により説明。

農業大学校は平成23年に専修学校化し、4年制大学への編入学試験の受験資格が得られるようになっており、昨年、1名が合格した。今年度は、国立大学に1名、私立大学に1名の計2名が合格している。平成28年4月には徳島大学に農学系学部である生物資源産業学部が創設されるので、地元の大学にも編入できるようにしたい。

(2) 重点課題の現地調査

徳島農業支援センターの重点課題「次代を担う経営体の支援」の生産現場(かんしょ)、鳴門藍住農業支援センター重点課題「鳴門藍住地域の園芸産地振興支援」の生産現場(短葉性ネギ)について、現地調査を実施。